

異常気象及び被害地域表

(決定額100億円以上：補助)

災害区分 発生月日	気象概況	雨量・震度等	主な被災地
熊本地震 平成28年 4月14日 ～ 4月18日	4月14日21時26分、熊本県熊本地方を震央とする、震源の深さ11km、気象庁マグニチュード(M) 6.5の地震(前震)が発生し、熊本県益城町で震度7を観測した。その28時間後の4月16日1時25分には、同じく熊本県熊本地方を震央とする震源の深さ12km、M7.3の地震(本震)が発生し、西原村と益城町で震度7を観測した。M7.3は1995年(平成7年)に発生した兵庫県南部地震(阪神・淡路大震災)と同規模の大地震である。気象庁は、最初の4月14日21時26分の地震を「平成28年(2016年)熊本地震」と命名し、4月15日に発表した。この地震の影響で、熊本県を中心に、多数の家屋倒壊、土砂災害等により死者64名、重軽傷者約1,816名の甚大な被害となった。また、電気、ガス、水道等ライフラインに被害が生じたほか、住民生活や中小企業、農林漁業や観光業等の経済活動にも大きな支障となった。	(震度) <熊本県> 7 : 西原村 益城町 6強: 南阿蘇村 菊池市 宇土市 大津町 宇城市 合志市 熊本市 6弱: 八代市 玉名市 菊陽町 御船町 美里町 山都町 氷川町 和水町 上天草市 天草市 <大分県> 6弱: 別府市 由布市 <宮崎県> 5強: 椎葉村 高千穂町 美郷町	熊本 大分 宮崎
梅雨前線豪雨 平成28年 6月6日 ～ 7月15日	6月19日から25日にかけて、本州付近に梅雨前線が停滞し、その前線上を次々と低気圧が通過した。その後前線は南下し、一時活動が弱まったが、27日以降再び本州付近に北上し活動が活発となった。これらの影響で、西日本を中心に大雨となった。 19日から30日までに観測された総降水量は九州地方の広い範囲で500mmを超え、宮崎県えびの市えびのので1210.5mm、熊本県南阿蘇村阿蘇山で1053.5mmなど、1000mmを超えた所があった。また、観測された最大1時間降水量は、熊本県甲佐町甲佐で150.0mm、熊本県山都町山都で126.5mm、長崎県雲仙市雲仙岳で124.5mmなど、多くの地点で1時間に80mm以上の猛烈な雨となった。 この大雨の影響で、土砂災害、浸水害等が発生し、熊本県で死者6名、福岡県で行方不明者1名となった。また、西日本から東日本にかけて住家被害が発生し、停電、断水、電話の不通等ライフラインに被害が生じたほか、鉄道の運休等の交通障害が発生した。	(日降水量) <熊本県> 山江 231.5mm (6/19) 鹿北 290.0mm (6/22) 阿蘇山 232.0mm (7/13) <大分県> 椿ヶ鼻 239.0mm (6/22) <宮崎県> えびの 270.0mm (6/28) 青島 252.5mm (7/8) <鹿児島県> 輝北 252.0mm (6/19) 平島 297.5mm (7/8)	熊本 大分 宮崎 鹿児島
暴風雨及び豪雨(台風第7号、第9号、第10号及び第11号) 平成28年 8月16日 ～ 9月1日	8月16日から17日にかけて、台風第7号が関東地方や東北地方の太平洋沿岸を北へ進み、北海道襟裳岬付近に上陸し、温帯低気圧に変わった。その後、20日から22日にかけて、台風第11号が東北地方の太平洋沿岸沖合を北へ進み、北海道釧路市付近に上陸した。また、21日から23日にかけては台風第9号が伊豆諸島付近を北へ進み、千葉県館山市付近に上陸し本州を縦断した後、北海道日高地方に再上陸した。さらに、19日に八丈島付近で発生した台風第10号ははじめ南西に進んだ後南大東島付近で向きを北東に変え、29日から30日にかけて日本の東海上を北へ進み岩手県大船渡市付近に上陸した後、31日00時に日本海で温帯低気圧に変わった。また、17日から22日にかけて北日本に、26日から27日にかけては本州付近に前線が停滞したほか、台風の周辺や日本の東海上の太平洋高気圧の縁に沿って、暖かく湿った空気が流れ込む状況が継続した。	(日降水量) <北海道> ぬかびら源泉郷 192.5mm (8/17) 森野 190.5mm (8/17) 大滝 195.5mm (8/30) <青森県> 野辺地 182.5mm (8/17) 酸ヶ湯 199.0mm (8/30) <岩手県> 大槌 151.0mm (8/17) 下戸鎖 223.5mm (8/30) <宮城県> 泉ヶ岳 138.5mm (8/17) 筆甫 124.5mm (8/30)	北海道 青森 岩手 宮城 山形 福島

	なお、北海道に3つの台風が上陸したこと、台風が東北地方太平洋側に上陸したことは、気象庁が1951年に統計を開始して以来、初めてのことである。 8月16日から31日までの総降水量は、北海道上士幌町ぬかびら源泉郷で858.0mm、静岡県伊豆市天城山で812.5mm、福島県福島市鷲倉で777.5mm、埼玉県秩父市三峰で683.5mmとなるなど、関東地方や北日本を中心に総降水量600mmを超える大雨となった所があったほか、関東地方や東北地方で1時間に80mm以上の猛烈な雨を観測した所があった。また、統計期間が10年以上の観測地点のうち、最大1時間降水量で25地点、最大3時間降水量で44地点、最大24時間降水量で8地点、最大48時間降水量で6地点、最大72時間降水量で19地点が観測史上1位の値を更新した。 台風第7号が接近、上陸した8月16日から17日の間の最大風速は、北海道釧路市釧路で31.8メートルを観測するなど北海道地方で暴風を観測した。台風第9号が接近、上陸した8月22日から23日の間の最大風速は、千葉県勝浦市勝浦で31.5メートル、東京都三宅村三宅島で30.4メートルを観測するなど関東地方で暴風を観測した。台風第10号が接近、上陸した8月30日の最大風速は、山形県酒田市飛島で25.3メートルを観測するなど東北地方で暴風を観測した。また、統計期間が10年以上の観測地点のうち、最大風速で21地点、最大瞬間風速で1地点が観測史上1位の値を更新した。 これらの台風等の影響で、河川の氾濫、浸水害、土砂災害等が発生し、岩手県で死者15名、北海道で死者3名、行方不明者2名、神奈川県で死者1名となった。また、北日本から西日本にかけて住家被害が生じ、停電、断水、電話の不通等ライフラインにも被害が発生したほか、鉄道の運休等の交通障害が発生した。	<山形県> 瀬見 132.5mm (8/17) 肘折 142.0mm (8/22) <福島県> 鷲倉 203.5mm (8/17)	
暴 風 雨 及 び 豪 雨 (台風第16号) 平成28年 9月17日 ～ 9月21日	9月13日03時に北マリアナ諸島の西海上で発生した台風第16号は、9月17日に沖縄県与那国島付近を北上した後に東シナ海を北東へ進み、9月20日00時過ぎに強い勢力で鹿児島県大隅半島に上陸した。その後、台風は四国沖を北東へ進み、9月20日13時半頃に和歌山県田辺市付近に再上陸し、更に17時過ぎに愛知県常滑市付近に再上陸した後、21時に東海沖で温帯低気圧となった。 台風第16号や台風から変わった温帯低気圧、日本付近に停滞した前線の影響で、宮崎県や大分県で日降水量が300mmを超えるなど、九州地方や四国地方の太平洋側を中心に日降水量が100mmを超える大雨となった。また、沖縄県与那国町与那国島で46.6メートル、高知県室戸市室戸岬で33.7メートルの最大風速を観測するなど、沖縄・奄美から東日本にかけて暴風となったほか、沖縄・奄美から東日本にかけて大しけとなり、沖縄・奄美から西日本太平洋側にかけては猛烈なしけとなった所があった。 この大雨により、土砂災害、浸水害等が発生し、死者1名、負傷者48名の人的被害が発生した。また、大雨や暴風、高波により、公共施設、農地等への被害、住家被害や、道路の通行不能、鉄道の運休、航空機・船舶の欠航等の交通障害が発生し、停電、水道被害、電話の不通等のライフラインの被害が発生した。	(日降水量) <高知県> 田野 233.0mm (9/18) 中村 106.5mm (9/19) 窪川 295.0mm (9/20) <宮崎県> 串間 175.5mm (9/17) 日向 355.0mm (9/19) 神門 234.0mm (9/20) <鹿児島県> 中甕 162.5mm (9/18) 枕崎 142.5mm (9/19) 牧之原 147.5mm (9/20)	高知 宮崎 鹿児島